

ボツケ遊歩道

ボツケ遊歩道は、阿寒湖の湖畔にあるまりもの里栈橋から阿寒湖畔エコミュージアムセンターまで続いています。木々に覆われた広い森は、阿寒摩周国立公園の入り口となっており、約 45 分かけて歩くことができます。遊歩道の途中では、湖や多様な植物、泡立つ泥を目にすることができます。

ボツケと呼ばれている泡立つ泥の沼はこの遊歩道の見所の 1 つです。この現象は、蒸気と火山ガスが地表の通気孔を通り、地下から吹き出すことで引き起こされます。ボツケという名前は、アイヌ語のポフケに由来し、「ブクブク泡立つ」という意味があります。湖畔の横で、蒸気が吹き出るこの素晴らしい沼の景色を楽しみましょう。

ボツケ遊歩道と合流する森のこみちは、落葉樹と針葉樹が混じる森の中を抜け、阿寒湖畔エコミュージアムセンターや阿寒湖畔の駐車場まで続いています。コース沿いに設置されたパネルには、コース内で目にすることができるアカエゾマツやトドマツ、エゾマツ、桂などの木々や野生動物の解説が掲載されています。森のこみちの所要時間は人によって異なりますが、だいたい 20 分程度となっています。